



羽田空港

WEATHER TOPICS



定期号

通巻 第 82 号

2020 年（令和 2 年）

1 月 31 日

発行

東京航空地方気象台

AirView について

1. はじめに

「空港気象実況画像提供システム（Airport Visibility estimation weather system: 以下 AirView）」は、各空港で観測した画像データをオンライン・リアルタイムで配信するサイトシステムです。羽田空港では、平成 29 年度に整備され、10 分毎の画像データを航空関係機関向けに提供しています。今回は、AirView について紹介します。

2. システムの概要

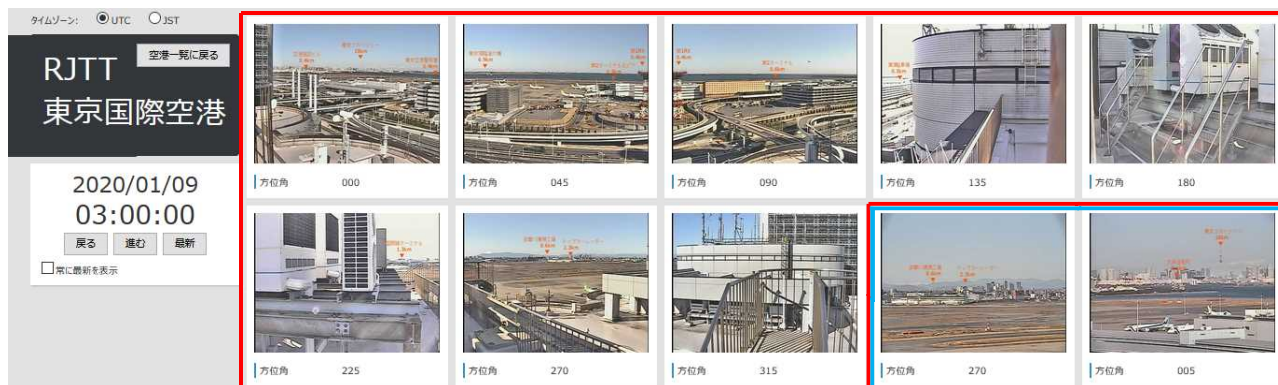
AirView は、日本各地 49 空港（令和 2 年 1 月 30 日現在）に整備されており、航空関係機関向けに気象実況データを配信するシステム「航空気象実況データ収集処理システム（以下 ALIS）」の閲覧サイトにおいて確認することができます。最新の画像データは観測時間のおよそ 5 分後には更新され、頻繁に空港周辺の状況を把握することができます。また、過去 3 日分までさかのぼって確認することができ、顕著現象の検証も行うことができます。

AirView 画像は第 1 図に示す三台のカメラを用いて作成されます。赤い丸で示した巡回カメラは、10 分ごとに 360 度観測しその際に記録した画像を表示します。青い丸で示した固定カメラは、空港ごとで決められた方角（視程が悪化する方向や距離が分かりやすい目標物が撮影できる方向等）で固定されています。

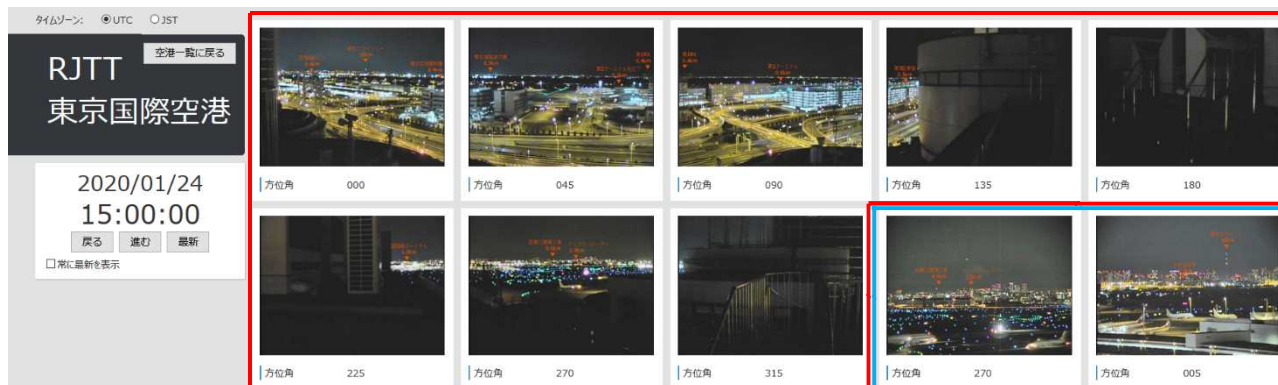


第 1 図 AirView カメラ

第2図、第3図は実際にALISで見ることのできる羽田空港の昼夜のAirViewカメラ画像です。画像は撮影方向毎に、視程目標物とその距離もプリントしたものとなっております。日時分を指定すると、特定の時間の画像を選択することができます。赤枠で囲った8つが巡回カメラの画像、青枠で囲った2つが固定カメラの画像です。それぞれの画像をクリックすると、第4図のように拡大表示することができます。それぞれの画像にオレンジ色で書かれているのは、視程目標物の一部で、およその視程を確認することができます。また、固定カメラの画像は、巡回カメラの画像に比べて周囲の目標物が見え易くなるように拡大されています。



第2図 AirView カメラ画像（昼）



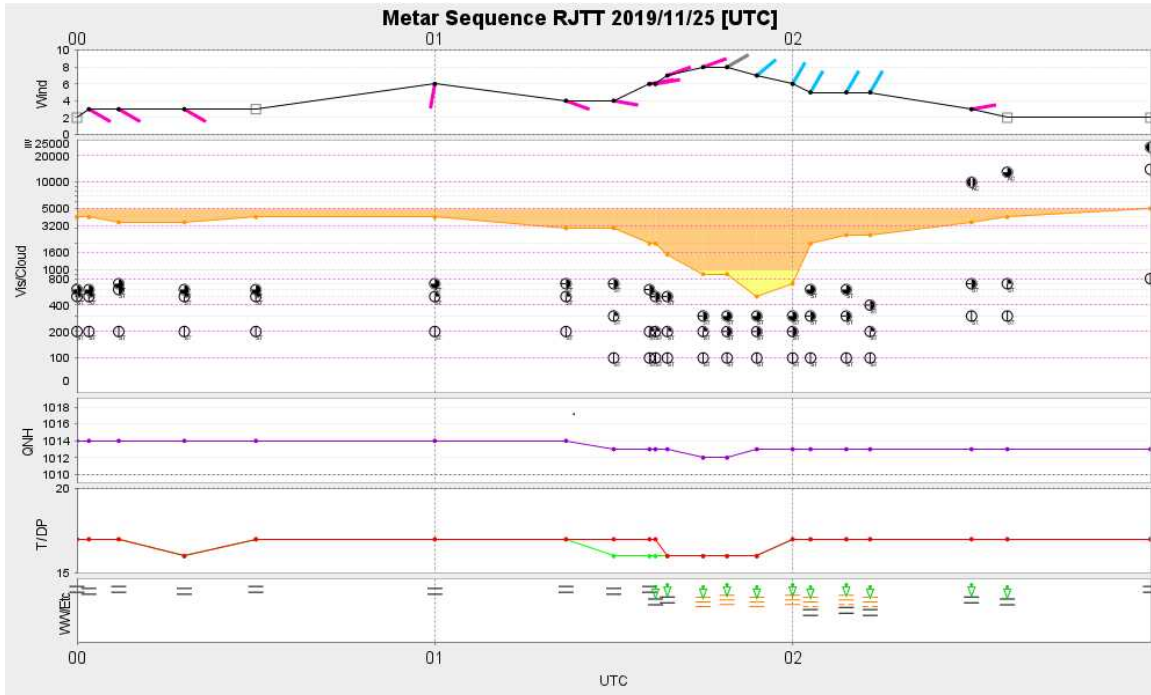
第3図 AirView カメラ画像（夜）



第4図 AirView カメラ拡大画像（画像クリック時）

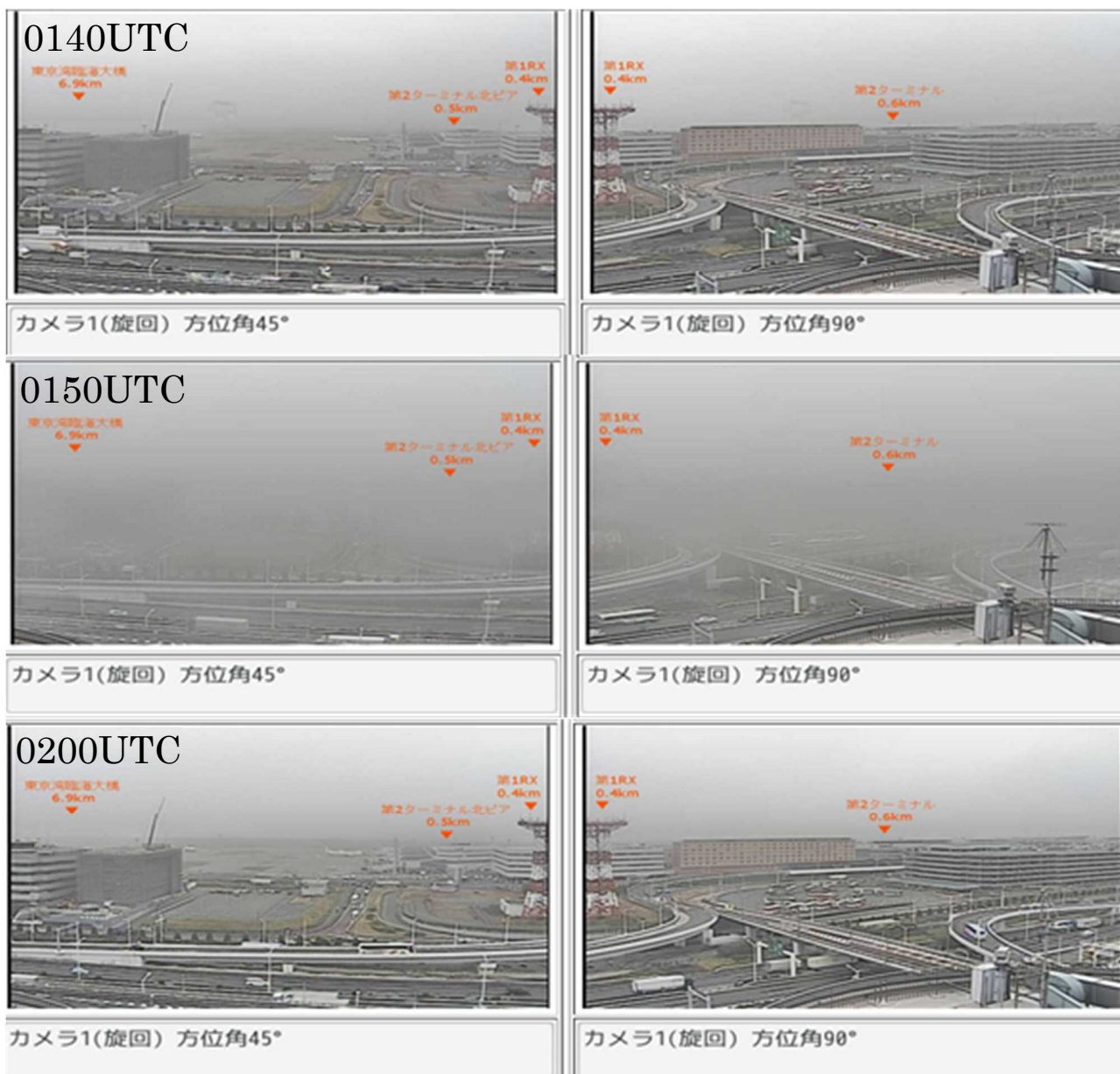
3. 実際の使用例

2019年11月25日(月)は低気圧や前線、上空の寒気の影響を受けて関東地方で気温が低下し、広い範囲で濃い霧が発生しました。第5図に25日00から03(UTC)までのMETARシーケンスを示します。羽田でもFGを観測し、卓越視程が500mまで低下しました(図中の黄色は卓越視程1,000m以下)。



第5図 METAR シーケンス (RJTT) 2019年11月25日0000~0300(UTC)

この日の AirView カメラの画像を時間順に表すと第6図のようになります。第2図と比較すると、0150UTCをピークに視程悪化の様子がはっきりと分かります。



第6図 11月25日0140~0200(UTC) AirViewカメラ画像

4. おわりに

今回は気象庁から航空関係機関に提供している情報の一つである AirView について紹介しました。AirView は、ALIS の閲覧サイトにおいてリアルタイムデータ及び電文情報だけでなく視覚的に分かりやすい情報提供を行わせて頂いております。空港の視程の状態をはじめ、気象の把握等にご活用下さい。

(東京航空地方気象台)

発行 東京航空地方気象台
〒144-0041
東京都大田区
羽田空港3-3-1